

大崎耕土の世界農業遺産

登録に向けて

各地の話題

大崎市

2017年10月13日 全国農業新聞



「大崎耕土」の巧みな水管理による水田農業システムが、平成29年3月に東北で唯一の日本農業遺産に認定され、併せて、国連食料農業機関（FAO）への世界農業遺産申請が認められた。

大崎地域は、「やませ」による冷害や洪水、渇水が頻発する厳しい自然条件を、水を巧みに活用した様々な営農の知恵や工夫を重ねながら、水田農業と農文化、水田や水路、屋敷林「居久根」が織りなす水管理に適した独特の土地利用で克服し、豊饒の大地「大崎耕土」を今に受け継いできた。

今、先人が長い年月をかけ築き、継承してきた水田農業の営みが、我が国がもとより、世界的にも重要であるとの評価を得られようとしている。

今後は、世界農業遺産認定に向け、一層の機運醸成を図るほか、認定を契機として大崎地域の豊かな農業システムを未来に継承していくための保全活動や、地域振興策を進めていく予定だ。

また、世界農業遺産認定を信じ、民間では熱気球に乗って空から大崎耕土を見学するツアーなどが企画されており、大崎市も様々なイベントを企画している

【記事提供：大崎市農業委員会】